

## 広島県にチェンジ・メーカーを育てる 22 世紀型大学が誕生！

—2021 年 4 月、広島県立叡啓大学が開学

広島県広島市の JR 広島駅から徒歩 10 分。川の多い町・広島市の京橋川と猿猴川の分流点にある上柳橋を渡り、叡啓大学を目指す。同校は 2021 年 4 月に開学した。地上 15 階、地下 1 階建てのビル一棟がキャンパスであり、9～13 階は国際学生寮である。

同校は、社会を前向きに変えるチェンジ・メーカーを育てる「22 世紀型大学」と銘打ち、100 年先の未来予想図をデザインできるように、社会を変える「実践力」と世界を通じる「教養力」を培う人材を育成することを目的として開学した。



JR 広島駅から川沿いの景観を臨み、叡啓大学を目指す



地上 15 階、地下 1 階建てのビルの叡啓大学外観

叡啓大学の「叡」は明らか、聡い、賢いなどの意味をもつ。そして啓は閉じたものを開ける、未知のものを明らかにする、教え導くなどの意味をもつ。英語でいうと ‘Open Wisdom’ , ‘Open Innovation’ である。

またこれからの時代は先行き不透明であり、VUCA の時代と言われている。VUCA とは、  
V (Volatility、変動性)  
U (Uncertainty、不確実性)

C (Complexity、複雑性)

A (Ambiguity、曖昧性)

という頭文字をとったものである。日々変動し不確実で、複雑で何も確固としたことがない、と言われる時代である。そこで同校では文理の枠を超えた知識やスキルで、この VUCA の時代に真摯に向き合い、果敢に挑戦してイノベーションを起こせる人材の育成を目標としている。



広島県立観啓大学 ソーシャルシステムデザイン学部  
学部長 保井俊之教授

今回は同校ソーシャルシステムデザイン学部 学部長・教授の保井俊之氏に開学までの経緯とこれからの展望についてお話を伺った。

### 「イノベーション立県」を目指す広島県で、観啓大学が設立された経緯

広島県はもともと教育先進県であり、人づくりや教育の改革を進めてきた。人口減少・少子高齢化やグローバル化が進むなか、新たな県づくりを推進するため、2010年に「ひろしま未来チャレンジビジョン」を策定した。その柱として、「イノベーション立県」を実現するべく取り組みが行われ、現在に至っている。イノベーションを生み出すためには、人財の確保や育成、蓄積が喫緊の課題である。

VUCAの時代は、「正解のない課題」に対して自ら考え、ほかの人と協働しつつ、リーダーシップを発揮しながら解決策を見出していく力が求められる。加えてグローバルな視点も必要である。それを既存の教育現場で展開することは難しい。そこで、そのような教育に取り組む新たな学校の創立が求められてきたのである。

例えば 2019 年に、全寮制中高一貫の広島県立広島叡智学園が開校した。この学校は「社会の持続的な平和と発展に向け、世界中のどこにおいても、地域や世界の『よりよい未来』を創造できるリーダーを育成する」をビジョンに据えている。2020 年には、国際バカロレア (International Baccalaureate/1968 年にスイス・ジュネーブで設立された非営利組織・国際バカロレア機構 (IBO) が認定する教育プログラム) の認定校になった。

また、社会人教育では、中国・四国地方では唯一の社会人が通学して学位が取れる広島県立広島大学大学院経営管理研究科 (HBMS) を作った。平日夜間土日開講、標準 2 年間の学修で MBA を取得できる。何が正解かわからない時代に、それを探し出すことに挑戦する人材を育成することを目的に 2016 年に開校した。

叡啓大学もまさにその潮流の中で、満を持しての開校となった。保井学部長は、「社会をそのまま繋がりとして捉え、問いをたてて、解決策を探し出すのがソーシャルシステムデザインです。その名前の学部を持った大学を作りましょう、というのが叡啓大学の設立主旨です。」と語る。

#### ユニークかつ先進的な取り組みの数々

定員は 100 名 (一般選抜 10 名、学校推薦型選抜 20 名、総合型選抜 50 名、留学生選抜 20 名)。4 月入学の 80 名超によって最初の授業がスタートし、9 月には更に留学生が入学予定だ。春入学でも、日本語で入試を受けて入ってきたベトナム、ウガンダ出身の留学生もいる。同校のユニークかつ先進的な取り組みを以下の通りいくつか挙げてみたい。

- ① 企業や自治体など約 60 団体と提携し、社会に即した課題解決 (PBL/Project Based Learning) 演習に注力する。
- ② 卒業に必要な単位の半分は英語で履修させる。英語科目のみの履修で卒業も可能である。
- ③ 国内外のインターンシップやボランティアを必須科目とする。
- ④ 学生 40 人 (1 学年 10 人×4 学年) 程度を専門分野の異なる教員 2 人が担任する「ポート：港」を設け、学生支援の柱とする。
- ⑤ 全学生へのコーチングを日本の大学で初めて取り入れた。学生が現在から卒業後までのキャリア形成を行えるよう、コーチングスキルをもつ職員などが「ナビゲーター」として、一人一人の学びに寄り添う環境を整備する。
- ⑥ 学生のコンピテンシー育成及びキャリア形成支援の一環として、「イブニングラウンジ」を開催する。さまざまなゲストを招き、実践的な体験から学びを得る。

## 知のブートキャンプ、「ジャンプスタートワークショップ（JSW）」

そして最も特徴的なカリキュラムは、入学早々に大学生活をジャンプスタート（急発進）するための各種オリエンテーションとともに、「ソーシャルシステムデザイン入門」、「課題解決入門」の2科目を6日間で学ぶことだろう。

「入学者一人一人が自分の課題を持っています。それがいろいろな機会に分かります。私たちが最初にそれを実感したのが、4月の入学後、6日間にわたって朝9時から始まって夕方5時まで行う『ジャンプスタートワークショップ（JSW）』という導入研修でした。

例えば、私は将来会社を起業したいから、地場産品と海外を結び付ける会社を育てたいので、その起業の勉強をしたい。動物の殺処分が目には余るので、そうしたことを反対するNPOを設立したい、活動したい。LGBTQI（Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender, Questioning Intersex/いくつかのセクシュアルマイノリティ）に関する活動で皆を活性化させたい、皆の意識を目覚めさせたいからそういった運動の中心になりたいなど、学生たちからいろいろな夢が出ました。ものすごく具体的なものばかりで、嬉しい驚きでした。」と保井学部長。



「ソーシャルシステムデザイン入門」授業履修風景

保井学部長は、「ソーシャルシステムデザイン入門」を担当した。これは社会を前向きに変えていく、デザインをしていくという学問である。

ソーシャルシステムデザインの全体俯瞰から始まり、システム思考、デザイン思考、社会システムと社会イノベーションの基礎概念と手法について学ばせた。更にはSDGs（国連の持続可能な開発目標）についても学び、SDGsと学生たちの夢が将来、どのようにロジカル

に繋がっていくかについても考えさせた。そして対話の手法について学ばせ、学生たちは円座で対話をファシリテーションできるようにまでなる。

受講した学生からは「授業を受けて自分の可能性が無限に広がる感じがしました。学生として学んでいる状況と社会との懸け橋が見えてきました。」という感想を聞くことができた。

また、「課題解決入門」は、早田吉伸准教授が担当した。学生たちの社会課題意識に基づいてグループワークを行い、グループとしての合意形成をして企画を練り上げ、プレゼンテーションを行う。そしてプレゼンテーションしたものは他からのフィードバックをもらい、更に企画をブラッシュアップしていき、ポスターと原稿にしていく。そして最終プレゼンテーションに臨む。また、チェンジ・メーカーの先達の話も聞くことができる。

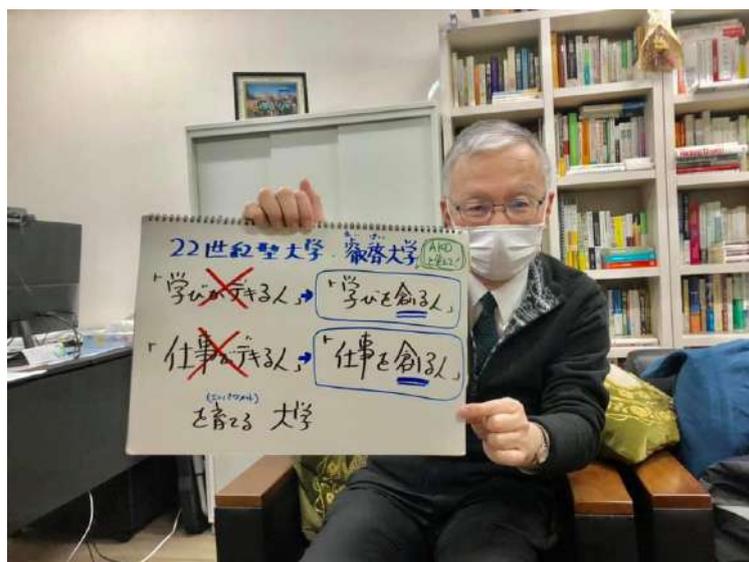
2・3年次では、企業などから提供された課題の原因を探究し、解決策の提案までを行う演習に3回取り組み、課題発見・解決力や他者と協働する力、やり抜く力などを養うという。

### 広島県から世界に繋がり、学びと仕事を創る人材を育てたい

日本のこれまでの大学モデルは新型コロナウイルス感染拡大を契機に、すっかり変わってしまったと言っても過言ではないかもしれない。今までの大学モデルでは、地方都市の高校卒業者は、東京をはじめとする大都市にある大学を目指して上京し、やがてそのまま東京などに残り、ごく少数は地方に戻っていた。大学に入学するために上京して下宿をし、大学の施設費を払っても図書館すらなかなか使えず、生活のためにアルバイトをして、大学へ行く機会もあまりないまま卒業してしまう。

そうすると自らのキャリアアンカー（キャリアを考える上で譲れない軸となる価値観や考え方）を見つけることもなく過ごしてしまう。その状態から新卒で企業に入った時に、一年目に集中的に研修を受け、そこでようやく専門的な問いや議論からキャリアアンカーを見つける。そろそろそんなモデルが崩れつつあるのではないか。

また、収束せぬ新型コロナウイルスの感染拡大により、東京をはじめとする大都市の大学に入学した少なからずの数の学生がまだ地元に残り、使わない大学の施設費を払い続けている例も多いと聞く。



「学びを創る人」、「仕事を創る人」を育てていきたいと語る保井学部長

保井学部長は「コロナ染拡大が収束しても、質の良い学びを修めるために『上京』する必要はもうないのです。我々はグローバルとローカルを掛け合わせた『グローバル(Global×Local)』という表現を使いますが、上京しなくてもグローバルに広島から繋がることができます。ここで学びを創っていきますよ、仕事を創っていきますよ、という教育モデルをアピールしたいのです。

広島にはもともと平和への希求を世界発信していくという伝統があります。世界的平和都市の広島に当校ができたことは、訴求力をもつモデルになるのではないかと信じています。

不確実な時代であり、更にはもうすぐ AI（人工知能）が人間の仕事を追い越し、今の仕事の半分はなくなる時代が来るのでは、と言われていています。そんな中で生き抜いていくために、アクティブラーニング（能動型学習）と『生き抜く』英語教育に力を入れ、学びと仕事を創る人材を広島から育てていきます。」と結んだ。

広島から地域・世界へ、地域・世界から広島へ。学びと実践を行っていく叡啓大学。4年後、第1期生が社会を変えるチェンジ・メーカーとして飛びたち、その連鎖が綿々と続くことを期待したい。

参考資料：

叡啓大学公式ホームページ

<https://www.eikei.ac.jp/>

広島県・叡啓大学

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/44/eikeidai.html>

ソーシャルシステムデザイン入門ダイジェスト（保井俊之）

<https://www.youtube.com/watch?v=SXDLZFxsZP4>

課題解決入門（PBL）ダイジェスト（早田吉伸）

<https://www.youtube.com/watch?v=BgUhUAhoCGE&t=160s>

叡啓大学公式 Facebook

<https://www.facebook.com/EikeiUniversity/>

叡啓大学広報 Twitter

<https://twitter.com/eikeiuniversity>

叡啓大学 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/c/eikeiuniversity>

叡啓大学 Instagram

<https://www.instagram.com/eikeiuniversityofhiroshima/>

文 奥山 睦 (Mutsumi Okuyama)